



愛猫の温もり 表現自在

絵を描くのは楽しい、何より(寄付で)猫を救える



自作のネコのTシャツを手にする藤井天真さん＝由布市挾間町古野

【由布】由布市の由布川小6年藤井天真さん(12)の猫を描いた作品を集めた「TEN N EKO TEN 小さな温もり」が同市挾間町古野のカフェ「TOAST coffee roaster」で開かれている。Tシャツやトートバッグは販売しており、売り上げの一部を保護猫団体に寄付する。20日まで。

由布 小6 藤井さん 展示、販売

飼っていた保護猫のちびちゃんやんが死んだことを機に愛猫を忘れたくないと9歳の頃から猫の絵を描き始めた。当初は段ボールや紙袋に描いてい

たが、Tシャツなどにも描くようになった。週に1度、美術家の榎園歩希さんが主宰する同町朴木の「ホノキアートリエ」に通い創作活動。下描

きはず、その日の気分で描き色合いも決める。全てデザインが異なり、3時間ほどかけて1枚を仕上げ、3年間で約150枚を完成させた。

榎園さんは「独自の色彩感覚を持つている。飽きることなく異なる猫を描き続けるのは、なかなかできることではない」と語る。これまでグループ展などでTシャツを展示販売するとすぐに売れ、学芸員やデザイナーからも好評という。

動物好きで、今も保護猫を飼う藤井さん。不幸になる猫が少なくなるようにと、保護猫団体への寄付を続けてきた。会場にはTシャツ約20枚とトートバッグ、絵画などが並ぶ。

藤井さんは「絵を描くのは楽しいし、何より猫を救うことができる」と話している。カフェの営業時間は午前11時半から午後5時。月曜休業。

(池田美香)

〔問①〕 由布市由布川小6年の藤井さんは猫の絵をTシャツやトートバッグに描いて販売しています。絵を描き始めた理由は何ですか？

〔問②〕 Tシャツ1枚につき3時間かけて絵を描きますが、3年間で何枚完成しましたか。

〔問③〕 藤井さんは売上の一部を保護猫団体へ寄付しています。不幸になる猫が少なくなるために他に何ができるか、方法を話し合ってみましょう。